



財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業

医療 安全情報

No.51 2011年2月

ワルファリンカリウムの内服状況や 凝固機能の把握不足

ワルファリンカリウムを使用していた患者の内服状況や凝固機能に関する情報の把握がなされていないため、観血的処置により出血が誘発された事例が5件報告されています(集計期間:2007年1月1日~2010年12月31日、第20回報告書「個別のテーマの検討状況」(P140)一部を掲載)。

ワルファリンカリウムを使用していた患者の内服状況や凝固機能を把握しないまま観血的処置を行い、予期せぬ出血を来した事例が報告されています。

	ワルファリン カリウムを 内服していること	ワルファリン カリウムの 内服量	凝固機能 データ	件数
情報の把握	○	○	×	3
○:あり ×:なし	○	×	×	1
	×	×	×	1

ワルファリンカリウムの内服状況や凝固機能の把握不足

事例

舌腫瘍疑いの患者は、下肢静脈瘤に対しワーファリン3mg/日を内服していた。医師は組織生検をするため、血液検査を実施した。生検の際に電子カルテ上で血液検査の結果を確認したところ、凝固機能検査の値は『検査中』と表示されていた。しかし、医師は生検を実施し、止血を確認後、患者を帰宅させた。3時間後、患者は口腔内出血を認め、救急外来に再来院した。舌及び顎下部から頸部にいたる血腫を認め、気管挿管及び舌動脈の塞栓術などの処置を施行した。

事例が発生した医療機関の取り組み

・観血的な処置を施行する前は、凝固に関する薬剤の内服状況や、凝固機能に関する検査結果の確認を徹底する。

ワルファリンカリウムの製品 (2010年12月31日時点)

- アレファリン錠1mg
 - ワーファリン錠0.5mg/1mg/5mg
 - ワーリン錠0.5mg/1mg
 - ワルファリンK細粒0.2% [NS]
 - ワルファリンK細粒0.2% [YD]
 - ワルファリンK錠1mg
 - ワルファリンK錠0.5/1mg [トーフ]
 - ワルファリンカリウム錠0.5/1/2mg [HD]
- ◆ワルファリンカリウム以外にも凝固機能に影響を与える薬剤があります。

総合評価部会の意見

・抗凝固剤を使用中の患者の治療・処置の際は、日本循環器学会が公表している「循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン(2009年改訂版)」の『IV.補足 2 抜歯や手術時の対応』などを参考にしましょう。

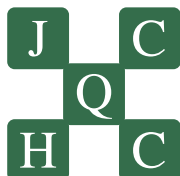
日本循環器学会ホームページ「循環器病の診断と治療に関するガイドライン」(<http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm>)参照。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.jcqhc.or.jp/html/index.htm>